

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1870200035
法人名	株式会社 かくだ
事業所名	敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」
所在地	福井県敦賀市新松島町8-30 (電話) 0770-22-6120

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年4月17日	評価確定日	平成20年6月2日

## 【情報提供票より】(平成20年 3月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 26 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 4.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3階建ての	1階 ~	3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

### (4) 利用者の概要( 3月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.3歳	最低	73歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	川上医院・ワカバ歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に根ざした福祉を展開し、代表の熱い思いから開設されたホームです。法人理念に基づいてグループホーム独自で職員で話し合い年間目標を設定し、さらに職員一人ひとりの個人目標も設定され、毎月職員はケアを振り返り、自己評価を実施し、代表・管理者等からフィードバックもあり、法人全体で理念に添ったケアに努められています。利用者の思いを大切にされており、何でも一緒にしながら出来る事等を見極め支援されています。個別外出での楽しみ事や毎日くもん学習療法を取り入れ、継続を通して機能向上・維持にもつながっています。また、ターミナルケアや重度化された方についても思いを尊重し、職員で丸となって支援されています。利用者は穏やかに過ごされており、利用者同士も助け合いながらとても温かい雰囲気のあるホームとなっています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での課題であった記録(ケアプランにそったケース記録、昼食内容の記録、水分摂取量の記録、センター方式による情報収集)については、職員間で検討され積極的に取り組まれ、一人ひとりのケアに活かされています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については管理者等が中心に作成され、会議で職員の意見を集約して作成されています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回運営推進会議が開催されており、家族、自治会長、民生委員、福祉委員、市担当者等が参加しています。ホームからの報告をはじめ、参加者からの意見や質問を受け、ケアを振り返る機会とし、地域の情報を得たり、提言してもらっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに来られた際に意見や要望を聞くようにしており、年に2回実施されている家族会、運営推進会議等でも意見交換をしています。得られた意見や要望については運営に反映しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	毎月地域のふれあいサロンへ参加し地域の方々と交流しています。また、地域の溝掃除や新年会への出席や老人会に入会し、職員はボランティアでレクリエーションを実施しています。法人として地域資源の利用にも努めています。学校帰りにホームへ小学生が多く立ち寄り、地域の方が作った物を持って来て頂いたりもしています。今後は幼稚園との交流や地域の方がホームに来てもらえる取り組みを検討しています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営理念が掲げられており、地域社会との連携についても謳われている。理念に添って職員で話し合い、グループホーム独自の年間目標が設定されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念、ホーム目標に添って職員一人ひとりの個人目標が設定されており、毎月自己評価を行い、代表、管理者よりフィードバックもされている。毎月の法人やホーム合同ミーティングでは理念を唱和し、また毎日の打ち合わせにおいても理念を基にケアについて話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月地域のふれあいサロンへ参加し地域の方々と交流している。また、地域の溝掃除や新年会への出席や老人会に入会し、職員はボランティアでレクリエーションを実施している。法人として地域資源の利用にも努めている。学校帰りにホームへ小学生が多く立ち寄り、今後は幼稚園との交流や地域の方がホームに来てもらえる取り組みを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価での課題については、積極的に出来る事から職員と話し合い改善されている。今回の自己評価については管理者等が中心に作成され、会議で職員の意見を集約して作成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議が開催されており、家族、自治会長、民生委員、福祉委員、市担当者等が参加している。ホームからの報告をはじめ、参加者からの意見や質問を受け、ケアを振り返る機会とし、地域の情報を得たり、提言してもらっている。		

敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市担当者には相談する等連携をとっている。介護相談員の受け入れも行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族がホームに来られた際に日々の話しをしたり、健康状態に変化があった際は電話でも伝えているが、たよりや手紙等での報告がされていない。	○	行事報告、予定なども掲載した定期的なたよりの発行や暮らしぶりや表情が見える手紙や写真等で伝える事が今後期待される。
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族がホームに来られた際に意見や要望を聞くようにしており、年に2回実施されている家族会、運営推進会議等でも意見交換をしている。得られた意見や要望については運営に反映しています。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	馴染みの職員によるケアが重視されており、グループホーム間での異動はあるが、日頃より交流もあり、また、退職者も少なく、馴染みの職員によるケアがなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	月1回の法人ミーティングで研修を行っており、ホームでも研修計画を立てて教育担当を決めている。外部研修にも出来るだけ参加している。また、資格取得支援をし、勉強会等の開催を行っている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会に加入をしているが集まりへの参加はされていない。同法人のグループホームとは職員、利用者とも交流する機会が多くある。また、敦賀市の介護事業者連絡協議会には代表が役員をしている。	○	地域の同業者とネットワーク作りや勉強会、相互訪問などの交流を通じて日々のサービスや職員育成につながるメリットも考えられるため他法人との交流の検討が期待される。

敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来てもらっている。入居後はホームに馴染んでもらえるように会話を通して出来るだけ思いを聞き出したり、家族に相談し、電話をしてもらったり協力を得ながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は自分や自分の家族だったと考え、利用者の希望を聞きながら食事や楽しみ事を行い、利用者から助けられたり、利用者同士が助け合ったりする場面もあり、何でも一緒にしながら支え合う関係づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いや希望を聞き、利用者同士の会話の中からも情報をキャッチしている。また、困難な場合についても出来るだけ話し掛けて表情からくみ取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を取り入れアセスメントしており、日々の会話の中から本人の希望を聞いたり、カンファレンスで職員の意見を聞きながら、また、法人の他のケアマネジャーの意見も参考に一人ひとりに合ったケアプランが作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回カンファレンスを行い、ケアプランの個々の目標ごとに評価も実施し、見直されている。状態に変化があった場合についてはその都度見直されている。日々の記録についてもプランにそった記録をし、毎日の昼会でも話し合っている。		

敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性として通院介助やふるさと訪問やデパートへの買物、外食などの個別外出の支援をしている。現在、医師の往診についても検討中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望のかかりつけ医を聞いている。受診の際は個人別の連絡ノートにて医師のコメントをもらい連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	意向確認書にて本人、家族の希望を詳しく確認している。実際にターミナルケアの際にはその都度家族の意向を確認し、医師の指示の下、職員で方針を共有しながら法人看護師との連携もありケアをしている。また、重度化した利用者についても意向に添って職員間で話し合いながら支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	代表からの話もあり、常に丁寧な言葉遣い、挨拶、対応等の徹底を心掛けている。特に入浴、排泄の際にはプライバシーに配慮している。個人記録については、事務室に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や買物など出来るだけ利用者のペースに合わせて支援されている。生活リズムを大切にしており、朝食については一度起きてもらっている。	○	朝起きる時間や寝る時間など利用者の思いについて職員間であらためて話し合い、ケアの統一を図る事が期待される。

敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については利用者の希望を聞いて立てられており、一緒に買物へ行き、調理や後片付け等出来る事を支援している。職員と一緒に同じ物が食べられていない。	○	食事介助が必要な方もおられるので難しい面もあるが、グループホームの特性を活かし、職員は利用者と一緒に同じ物を食べる検討が期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回の入浴であるが、希望があれば支援しており、長さや順番の対応もその都度確認をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者はくもん学習療法に通っており、機能の向上・維持につながっている。生活歴を活かして野菜作りや日々の調理、掃除、洗濯たたみなど職員と一緒にやっている。また、お絞りたたみやシーツ交換などの役割やカラオケ、ぬり絵などの楽しみ事も支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物、お弁当を持って公園に行ったり、ドライブに出掛けている。また、季節に応じて花見や栗拾いなどの外出行事や個別外出の支援もしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。外に出る際は一緒に付き添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練については今年実施予定となっており、地域の方にも参加してもらえるように働きかけていく予定であり、地域の方の連絡先を入れた緊急連絡体制が作られている。	○	今後予定されていますが、一人ひとりの利用者の状態を踏まえて、昼、夜を想定して、地域の方にも参加して頂き、実際の避難訓練の実施が期待される。

敦賀ケアセンターかくだ「あずさ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事が提供されており、昼食は地元の魚中心の献立で、手作りヨーグルトも提供されている。必要な場合はカロリー計算されている。食事摂取量は毎食記録し、水分量については一日の合計も細かく記録し、一人ひとりの状況を把握している。利用者の体調、状態に合わせて、ミキサー食等対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まわりには利用者により花々が植えられており、玄関には季節の花が飾られている。1階のリビングには和室コーナーもあり、みんなの居るところでお昼寝をしたり、洗濯物をたたんだり活用している。昔懐かしい柱時計やタンス、家庭で使用されている食器棚等も配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持って来てもらえるように説明している。利用者は使い慣れたタンスを持ってきたり、カーペットを敷いたり、家族の写真や飾り等を工夫し居心地良く過ごせる居室づくりがなされている。		